

大事協だより

大島地区公立小・中学校事務職員協会 研修部
第23号 2008年12月15日発行



早いもので12月となりました。
第2回理事会が10月28日に開催されました。アンケートの結果報告・集計、今後の活動計画・新年度役員について確認をしました。各市町村理事の方々を中心に内容については、確認していただけたらと思います。次回は、3月に実施予定です。



☆☆クリスマスに合わせて、すてきな便りが届きました☆☆

龍郷町立大勝小学校 ハイコネンひとみ

“メリークリスマス！” 森と湖の国フィンランドより

北欧にあり国土の70%近くが森林に覆われ、10%を湖沼や河川が占めるフィンランド。その面積は日本のほぼ90%で、九州を除いたほどの広さです。フィンランドの北部に広がる北極圏一帯はラップランドと呼ばれ、フィンランドでもとりわけ大自然に恵まれた地域。秋から春にかけて、夜空に輝く幻想的なオーロラが現れます。また夏至の頃には一晩中沈むことのないミッドナイトサン「真夜中の太陽」が見られ、幻想的な白夜の大自然が広がります。フィンランドの南部でも4時間ほどしか太陽が沈まず、一晩中ほのかに明るい白夜が続きます。逆に冬至前後の数週間、北極圏では太陽は地平線の下に留まり、顔を出しません。一日の4分の3は、うす青い闇に包まれています。

フィンランドのあったかクリスマス事情

サンタクロースの故郷に近いフィンランド。クリスマスの日には家族で集まり、静かであたたかなひと時をすごします。クリスマスは大切な人との絆を深めるフィンランドでは大切な行事のようです。

1 サンタは“ラップランド”からやってくる

サンタクロースの起源には諸説ありますが、フィンランドにはサンタクロースの家があるって知っていましたか？ 1929年にフィンランド国営放送局が、ラップランドにある「コルバトウントゥリ」という耳の形をした山を、サンタクロースの家に決めたそうです。それ以来、そこからトナカイにそりをひかれてプレゼントを届けにやってきます。



2 「小さなクリスマス」はフィンランド版「忘年会」

フィンランドでは、クリスマス前に友達や同僚で集まってちょっとしたパーティーを開きます。それを、フィンランド語で「ピックヨウル（小さなクリスマス）」といいます。フィンランドのクリスマスはクリスマスから4週間前の日曜日からスタートします。日曜を迎えるごとにろうそくに一本ずつ火を点し、クリスマスカードを送りあいます。クリスマスが来る日をカウントダウンしながらクリスマスの準備を始めます。



3 クリスマスはやっぱり“家族”で過ごす

クリスマスイブの12月24日にはフィンランドの旧首都であるトゥルクで「クリスマスの平和」が宣言され、中世から続く伝統ののち祝辞がのべられます。この後は、街中のほとんどのお店は閉まり、交通機関もストップします。クリスマスを祝うために子どもたちは両親のもとへ戻ります。クリスマスツリーのトウヒの木を探しに森へ出かけたり、サウナで体を清めたり、家族揃ってつくるクリスマス料理が並ぶ、これがフィンランドならではのクリスマスの習慣です。サンタの住む国フィンランドでは自然の中に溶け込みながら家族の絆を大切にするそんな時間がクリスマスなのです。

私たちの住む日本でも、フィンランドのクリスマスのようにゆっくり家族と過ごし、静かであたたかいクリスマスを見直すことで、家族への感謝の気持ちを感じたり絆を深めたりするひと時になっていいかもしれませんね。



ハイコネン先生は、11日に元気な女の子を無事出産されました。
おめでとうございます♡

＜各地区からのたより＞

今回の原稿は、喜界町から届きました。ありがとうございます。次号は、来年2月発行予定です。原稿は、与論町へお願いいたします。

各市町村の研修会での様子、様々な取り組み、写真、趣味等、年末年始に思うことなど、原稿お待ちしております。



喜界町の共同実施について（2回目）

研究指定も2年目後半になりました。昨年度は「事務職員未配置校支援を中心とした共同実施を研究しなさい。」ということで、苦しみながら研究に取り組んできたところですが、そんな中でも、私有車使用承認申請の簡素化などの提案もし、旅行命令簿と兼用の新様式の導入をするなどの成果もありました。本年度は、主にここのいびつな形の共同実施を打開するため、「学校事務相互支援組織の確立と情報共有化」というテーマに切り替えて取り組んでいます。

（未配置校支援は教育支援の1分野として継続。）また来年度は、町事務職員会全体での相互支援組織の確立が図れるよう、研究指定を受けないことにしました。現在はそれまでの橋渡しとしての研究ともいえるかもしれません。大まかな内容については以下に記します。

【研究指定校と関係事務職員（※児童数は年度当初のものです。）】

学校名	事務職員	研究指定に伴う兼務辞令
湾小学校：児童数305名	白川誠一、東 隆大	全員に研究指定校全校校に対しての兼務辞令が発令されている。
坂嶺小学校：児童数12名	徳 哲也	
上嘉鉄小学校：児童数43名	福崎 紗裕理（新採）	
滝川小学校：児童数 16名	未配置(もともと坂嶺小事務職員が兼務)	
阿伝小学校：児童数 11名	未配置(もともと上嘉鉄小事務職員が兼務)	

《研究組織》

- 研究協議会（年3回）○推進委員会（年3回）
- 事務職員部会（月1回～2回程度 14:00～16:45に開催）
- 管理職部会（年2回）

《本年度の取組》

次の(1)～(4)までの視点で研究を進めています。本年度は特に研究指定解除後の相互支援体制や加配なしになったときのことも考えて、(1)に重点を置いて検討しています。

(1)学校事務相互支援のための適正なブロック化のあり方について

もう限界です。どこからどう見ても、ここの共同実施は変則的な学校の組み合わせで無理があります。この体制で続けていくと未配置校支援が盾となって負の遺産が増えていくばかりです。（今後支援が必要となる1分野とは考えていますが。）共同実施の体制としては、今の喜界町のようにするのはありません。このようなことから、今年度は研究指定を利用して、今のうちに町事務職員会全体で来年度以降の適正な相互支援体制が整えられるよう画策しています。

(2)事務職員の連携による相互支援について

- 手当認定の相互審査（町事務職員会3ブロック化の1ブロックとして）
- 新規採用事務職員への支援
- 事務処理の相互チェック（自主検査報告書を利用）
- 備品の共有化（予算の効率的執行や貸借の利便性から共有フォルダで管理）
- 文書ファイリングの研究：モデル案をもとに、上嘉鉄小事務室の総ファイル入れ替えを実施。新採支援、異動時の支援
- 共同実施だより（TOGETHER）の発行（職員向け、年3回程度）

(3)教育支援について

- 町補助金申請事務の担当
- 教科書無償給与事務支援の研究
- 給食費事務支援の研究
- 事務職員未配置校支援（湾小から2校に月1、2回程度半日または終日勤務し、備品購入の段取りや適正な町費執行についてのアドバイスなどの支援をしています。）

異動で新採がメンバーに加わり（羨ましかろう？）飲み会のフットワークが軽快になったことも本年度の特徴です。「顔面から倒れ込むほど楽しく飲める」、そんな支援組織になりつつあります。パワーで暴走しないよう、展開的な最終年になるようがんばっていきたいと思います。

＜喜界町新規採用事務職員の声＞



上嘉鉄小学校 福崎 紗裕理

新規採用で上嘉鉄小学校に赴任してから、1年が過ぎようとしています。兼務校を抱えながら本務校の行事等に追われるため、事務の仕事に腰を据えて取り組むことができないことに一学期は悩みましたが、周りの事務職員の先輩方のアドバイスや丁寧な指導があり乗り切ることができ、とても感謝しています。

大隅半島で育った私にとっても、喜界島の手つかずの自然はとても魅力的です。特に色とりどりの魚や珊瑚に包まれた海の中の世界に感動しました。冬好きな私でも夏が楽しみになるほど、喜界島の夏は素敵です。大島地区ならではの体験を楽しみながら、早く私も先輩事務職員の方々のように、周りから信頼され必要とされる事務職員になれるように日々努力していきたいと思っています。

第二中学校 作井 美由紀

島のゆったりとした生活もそこそこに、駆け抜けるように時間が過ぎていくように感じます。期限付事務職員として第二中学校に来て、何もわからなかった4月に比べると余裕も出てきました。未だに「先生！」と呼ばれるのがくすぐったくて、けれど学校現場を楽しんでいる自分もいる。子どもたちから見れば私も「先生」という位置にいて、職員の中でも「事務のプロ」（まだまだ半人前ですが）という位置。その緊張感が心地いいのかもかもしれません。いろんな発見があり、子どもたちのパワーが伝わってくるこの仕事に就けて、私は幸せだと日々思っています。わからないことが上手く表現できない私のモヤモヤを読み取ってくれる、エスパー並みの事務職員の先輩方にも感謝し、私も向上心を持って「頼られるような人」になりたいです。

○大事協は次のような意義のもと設立・活動しています 御確認をお願いします○

＜協会設立の基本理念に則り、 更なる発展を目指して活動する。＞

- ①大島地区小・中学校事務職員全員参加の「輪（わ）」＝会を設立する。
※情報交換の場として（地理的条件の克服）
- ②当分の間は、地区内の緩やかな繋がりを持つ会として。
- ③「資質向上」につながる会として。
- ④今後の大島地区内における「学校事務」について考える場
意見交換の場として。
- ⑤実務面での研修を補うものとして。

○編集後記○

12月になってもまだまだ暖かい喜界島。先日の喜界島一周駅伝大会でも3名の事務職員の先生が地域のために走りました。全国的に広がる共同実施の流れの中で、いつまでも地域に愛され、顔の見える事務職員でありたいものです。